

兵庫県に於ける

アサギマダラの越冬の記録

広畑 政巳

県下の4カ所で本種の越冬を確認しているので報告をしておきたい。

(1) 佐用郡南光町船越	1983-I-3	3 幼虫
(2) 多可郡加美町金蔵山	1987-IV-2	18 幼虫
(3) 神崎郡福崎町七種山	1991-XI-17	3 幼虫
同 上	1992-I-15	15 幼虫
(4) 相生市能下	1994-II-11	6 幼虫

越冬が確認できたのはすべてキジョランからで、筆者が終期に確認した相生市、南光町では寒さのため葉が内側にまるく筒状になったその中に見られた。幼虫は前記5例すべて若令で大きな幼虫は発見できなかった。

福崎町七種山の15頭、相生市能下の6頭、加美町金蔵山の18頭はキジョランで飼育をしたところ、七種山のものは15頭中羽化したのは2頭のみで、あとは寄生蜂がでてきた。他の2産地のものはすべて羽化している。

本種の越冬については温暖な地域では成虫越冬も確認されているようであるが、越冬が確認されている関東以西では幼虫越冬で、それも令数が低いほど生存率が高く、若令幼虫が大半のようである。県下に於いても前記4例はすべてがこの通りであった。

オオムラサキの越冬幼虫からはこれまで寄生蜂、寄生蠅がでてきたことはないので、若令の越冬幼虫は寄生されないのではと考えていたが七種山のものはこれに反する結果となった。

本稿を草するに当り、加美町の記録を提供いただいた森下泰治氏、七種山の飼育の結果を教えていただいた石井為久氏、五十嵐喜昭氏、森下泰治氏に御礼申し上げます。